

# 女性社会論 b

(3年 後期 2単位)

富田 洋三

## 授業のテーマ・目標

資本主義の時代に入ると「男は外に女は内に」という性別役割分担が行きわたるようになった。その当初の意図は、過酷な労働から女性を解放することによって健全な家庭生活を営むことにあり、19世紀においては「進歩的」な考え方であった。しかしそれによって女性は労働の場から閉め出され、男性は家庭労働を忌避するようになった。1960年代まではこれが大きな社会問題となることはなかったが、70年代以降、サービス生産の拡大に伴って次第に女性の就業が求められるようになってきた。そして90年代後半以降になると女性の就業は社会的必要となり、「男女共同参画社会」が志向されるようになった。この過程をたどることによって、仕事と家庭生活の意味を考えたい。

## 授業の内容

1. 産業革命と「主婦」の誕生
2. 資本の論理と女性労働
3. 保護される人と保護する人の労働システム
4. アメリカの清潔文化と女性の意識
5. イエ制度の下における日本の女性
6. 新憲法、新民法と女性の「人権」
7. 近代化・工業化過程における女性の意識
8. 高度経済成長と「標準家族」
9. 家事の商品化と家庭労働の意味
10. サービス業の展開と女性労働力率の上昇
11. 女性の意識変化とクロワッサン症候群
12. 初婚年齢と未婚率の上昇
13. 介護と育児の社会化／女性労働観の変化
14. 男女差別から女女差別へ
15. 人口減少時代の「男女共同参画社会」

## 準備学習

板書のノート、配布したプリントについて疑問があれば自分で調べ、なお疑問が残れば質問すること。

## テキスト・教材

必要に応じて配布する。

## 成績評価の方法・基準

小レポートや質疑応答による授業参加の度合い (30~40%)、期末のレポートないし試験 (60~70%)。